

日銀の視点

借葉園では梅の剪定が始まった。剪定で日当たりや風通しをよくし、若い枝を大切に育てることが古い枝や樹木全体の強化につながるという。茨城県の将来を担う人材の育成について前回は、子供たちの「生きる力」を育む金融教育への県内小学校の取り組みを紹介した。今回は金融教育の一環として、キャリア教育の目標の一つである「地域への感謝と貢献」にも重点を置き、生徒が地域とのつなが

日銀水戸事務所長 **鈴木 直行**

生徒と地域つなぐ学び

りを体験し、意識する貴重な機会を得ることに注力している県内の中学校と高校の取り組みを紹介したい。

最初は、美しい自然に恵まれ、農産物も豊かな城里町の町立常北中。同校では、各教

使った料理は町の健康施設のメニューに採用され、売れ行きも好調という。総合学習の時間では、コロナ禍で中止となった職場体験に代わり、地元との協力により地域で活躍する職業人に学ぶ会を開催。移

三高の取り組み。商業に関する学科では、金融・経済や企業取引などに関する知識を習得するとともに、地元業者の協力を得てパンや菓子の商品開発にも取り組んでいる。キャリア教育として未来のライフプランを考え

に多くの人材を輩出してきた伝統校の雰囲気を感じた。このように両校では金融教育への取り組みを通じ、生徒と地域の経済活動との結び付きが生まれ、強まっている様子が感じられた。金融教育を一つの契機として茨城県の将来を支える人材が育ち、活躍していくことを期待したい。最後にコロナ下で工夫を重ね、素晴らしい授業を実践された両校の先生方、ご指導いただいた県・城里町の教育委員会、金融広報アドバイザーの皆さまに深く御礼を申し上げます。

科で金融教育に取り組みとともに、家庭科や総合学習の時間で地域への感謝や貢献につながる授業を実践。例えば家庭科では調理実習で地元の特産品を活用。生徒が考案したキングポークなど地元食材を

動販売車が地域でのコミュニケーションの場も提供していることなどを生徒に学ばせ、働くことの意味ややりがいなどを考えさせていた。

業を通じて将来の進路、職業や住居などを具体的に考えさせていた。生徒からは「将来の生活拠点を地元で置きたい」と地域の未来にとって明るい声も聞かれ、地域の自治体、金融機関、メーカーなど

(次回は来年1月9日掲載)